

I. 日 時：平成27年10月26日（月）午後6時00分～午後8時

II. 場 所：アルカディア市ヶ谷 私学会館 会議室

III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、東村委員、酒井委員、田辺委員、家本委員、白崎委員、
辻村委員、井上委員、斎藤アドバイザー、青木アドバイザー、吉永アドバイザー、宮脇アドバイザー、
山本アドバイザー、中塚アドバイザー、岸アドバイザー、
井端事務局長、森下

IV. 資 料

1. 平成27年度事業計画書
2. 平成26年度産学連携推進プロジェクト委員会の活動報告
3. 平成27年度産学連携推進プロジェクト委員会の活動計画について
 - ① 平成27年度産学連携推進プロジェクト委員会の活動計画
 - ② 平成27年度「大学教員の企業現場研修」について（事務局メモ）
 - ③ 平成27年度「社会スタディ」開催方針（事務局メモ）
 - ④ 第7回「産学連携人材ニーズ交流会」開催方針（事務局メモ）

V. 検討内容

1. 平成27年度産学連携事業の進め方について

事務局より平成27年度の事業計画の説明、平成26年度の活動報告が資料に基づいて行われた。

その後平成27年度の産学連携事業の進め方について、資料に基づいて「産学連携人材ニーズ交流会」、
「大学教員の企業現場研修」、「社会スタディ」の実施方針を検討した。

(1) 産学連携人材ニーズ交流会の開催方針について

主な検討事項は以下の通り。

- ① 本年度は、IoTと人工知能(AI)をテーマにこのような情報革命の時代に対応できる大学教育の転換を目指して、産学連携による分野横断型の教育改善を考える場にした。
- ② 自動車、家電、センサーなどあらゆるモノがネットワークにつながり、リアルタイムでデータ化される膨大なデータを活用することで、さまざまな価値の創出を可能とする時代にどう対応するか視点を入れる。
- ③ ICTが生活やビジネスを大きく変える「知」のインフラとなっていること、地域や社会の課題を解決する手段として避けて通れなくなっていること、さまざまな領域から多様な情報や考えを組み合わせ、新しい視点を提案し行動できる実践的な情報系人材力の育成を考える場とする。
- ④ 開催日時は、平成28年3月2日（水）～4日（金）を候補に調整し、次回委員会にて決定する。
- ⑤ 有識者からの情報提供以下の2つをテーマに願います。
 1. IoT（インターネット・オブ・シングス）の世界の潮流について
 2. 新たな価値を創出するビッグデータの活用

- ⑥ 課題提起として、「構想力を育成するための教育プログラム」について本協会の情報専門教育分科会から教育モデルを紹介し、情報提供及び課題提起を踏まえて、情報系人材の教育の方向性について意見交換し、産学連携による分野横断型の教育を考察する。

(2) 平成 27 年度「社会スタディ」の開催方針について

平成 27 年度「社会スタディ」開催方針（事務局メモ）に基づいて開催内容を検討した。

主な検討事項は以下の通り。

- ① 本年度も昨年同様に 4 名の有識者から話題提供いただき、質疑応答、「社会的課題を解決するために ICT を活用した将来をイメージして未来を自ら切り拓く取り組み」についてグループ討議していただく。
- ② 有識者の候補は以下の 4 名に依頼する。
- ・ イノベーションに求められる学び 東京大学 大学院 教授 須藤 修 氏
 - ・ 利用者視点での新たな価値創造と ICT 富士通株式会社 シニアエキスパート 西川 仁 氏
 - ・ ICT 革命による日本再生 慶應義塾大学 特別招聘教授 夏野 剛 氏
 - ・ 夢を追求し、イノベーションを創出する「デザイン思考」と「分野横断学修」
株式会社 NTT ドコモ 執行役員 栄藤 稔 氏
- ③ 開催日時は、平成 28 年 2 月 16 日（火）を候補に有識者のご都合で決定する。
- ⑥ 開催場所は 株式会社内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS とする。

(3) 大学教員の企業現場研修の開催方針について

平成 27 年度「大学教員の企業現場研修」について（事務局メモ）に基づいて開催内容を検討した。

主な検討事項は以下の通り。

- ① 大学教員の企業現場研修については年々参加希望が増えており、昨年度は 4 社合わせて 106 名が参加し非常に好評であり、大学からの事業継続の要請が多いことから本年度も賛助会員の協力を得て事業内容の充実を図りたい。
- ② 協力いただく賛助会員は以下の 4 社にお願いしている。
- ・ 日本電気株式会社
 - ・ 株式会社 内田洋行
 - ・ 株式会社日立製作所
 - ・ 富士通株式会社
- ③ 開催日は平成 28 年 2 月～3 月上旬の開催で各社と調整中し、次回委員会（11 月 16 日）で報告する。
- ④ プログラムの方針
- 各社で進めている ICT を活用したイノベーション事業について紹介いただき、社会的な課題、組織的な課題、グローバルな課題の解決に ICT が基盤として関わっていることの重要性を理解いただけるプログラムとする。
- ⑤ プログラムの構成
- ・ 事業概要、事業戦略の紹介（説明と意見交換）
 - ・ 人材育成の取り組み（説明と意見交換）

- ・イノベーションの核となる ICT 活用事例の紹介（説明と意見交換）
- ・若手社員との意見交換

⑥ 募集規模は、会場の受け入れ可能数とし、20 名から 40 名程度とする。

2. 次回の日程について

次回は平成 27 年 11 月 16 日（月）18：00～20：00 とし、有識者への依頼状況、会場の確認を含めて開催要項を確定することにした。